

大空の子

学校教育目標

- 知恵をみがき
- 清い心をはぐくみ
- 身体をきたえる子

令和3年9月7日(火)

帯広市立大空小学校

校長 川上 裕 明



デジタルとアナログと、リモートとリアルと……

北海道・十勝の感染者数も減少傾向です。

ただ、まず12日までの宣言期間は厳重注意、その後も充分気をつけw活動しなくては。



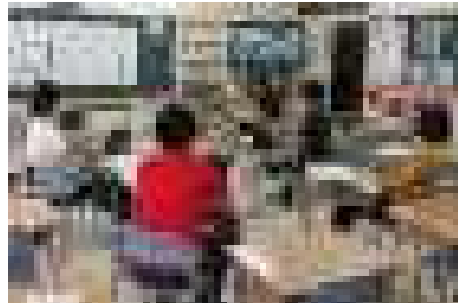
先日は、児童会委員会がリモートで行われました。

現在、学校では複数学年による交流ができません。いざというときの感染経路を限定するためです。しかし、学校には異学年交流で気づいたり身につけたりすることも多く、委員会活動もその1つです。

この日は、各学年内で委員会に分かれ、端末で異学年を結び活動を行いました。複数のリモート会議が同

時に行える、GIGAスクールの利点を生かした活動です。

放課後に行われる先生方の勉強会では、「タブレット端末の有効活用」について研究しています。授業では、低学年がカメラ機能を使い植物の観察記録を蓄積しています。高学年は毎朝の連絡をオンラインで確認したり、原稿作りやプレゼン資料作成も上手になってきま

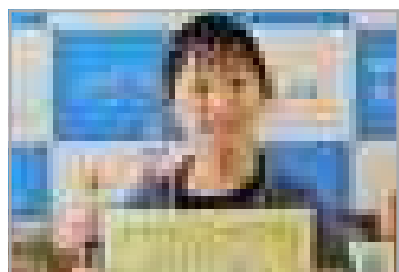
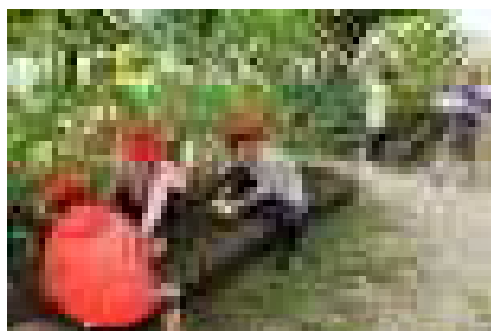


した。タブレット端末を学習用具の1つとして授業で活用することで、これからの社会を生き抜いていく力が増えていくことを期待します。

一方、自然や生き物と関わる実体験も、大切な教育活動です。

この日は2年生が菜園の草取りをしていました。「植物には大き

くなるタイミングがある」「雑草を管理するとよく育つ」「日当たりが良い場所のトマトは赤くて甘い」などのアナログな実体験も、教育には欠かせません。



がんばる大空っ子

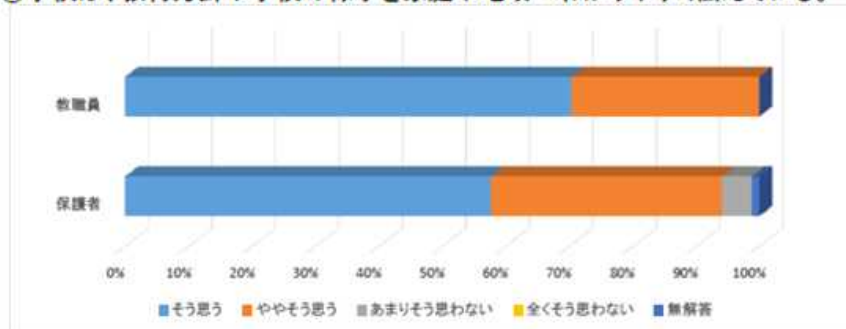
4年 □□□□ さん

チアリーディングスピリッツ演技競技
小学校高学年の部 準優勝

より良い大空小学校を作るためのアンケート

7月に行ったアンケート、児童・保護者・教職員の共通項目についてお知らせします。

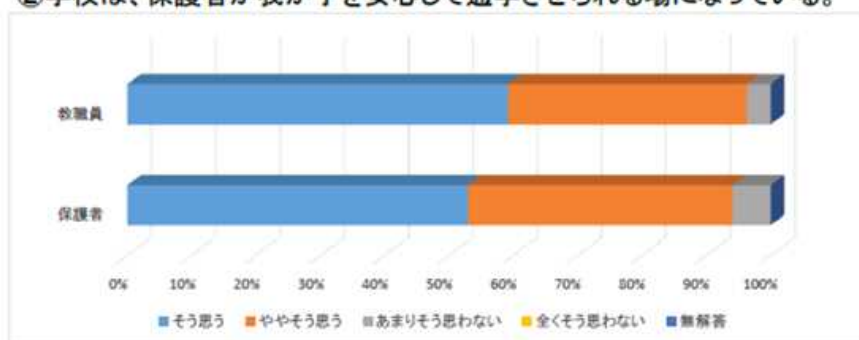
①学校は、教育方針や学校の様子を家庭や地域へわかりやすく伝えている。



①学校から保護者の皆様・地域の皆様へお伝えしたいことは山ほどあるのですが、「どのように伝えるか」に日々悩むところです。特にコロナ対策や行事の変更などはスピーディーに、その他はしつ

こくならないよう選択しながら……と考えています。学校のように、**教務主任の〇〇先生がたくさん**の写真をホームページに載せてくれていますので、そちらもぜひご覧ください。

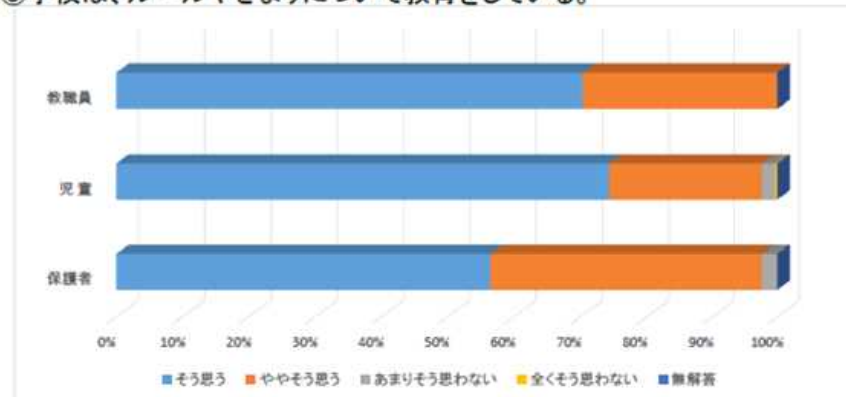
②学校は、保護者が我が子を安心して通学させられる場になっている。



②「**子どもの安全は学校の1丁目1番地**」を常に心に刻んでおります。今の社会情勢下では学校単独ではなかなか実現できないこともあります。が、「もっとこうするといいよ」などのアドバイスもいた

だけると助かります。学校での過ごし方など、お子様からもたくさん聞いてください。

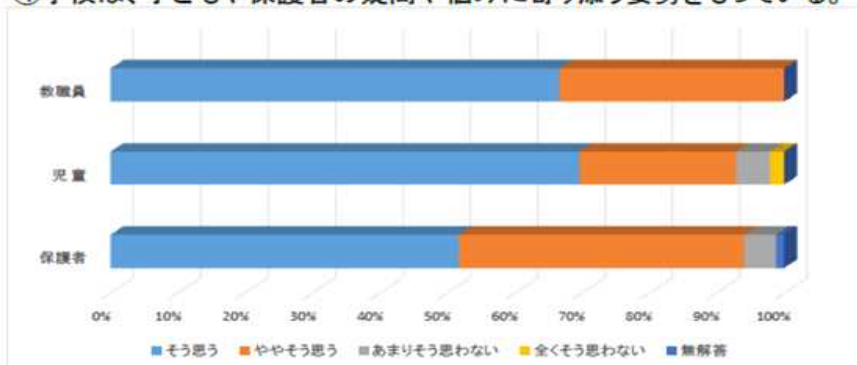
③学校は、ルールやきまりについて教育をしている。



③昨年にと比べると、**児童の「そう思う」が10ポイントほど増えました**。これもコロナがらみの指導が影響しているのでしょうか。学校は、大勢が集まって過ごすプレ社会勉強、児童には理解しづらいこ

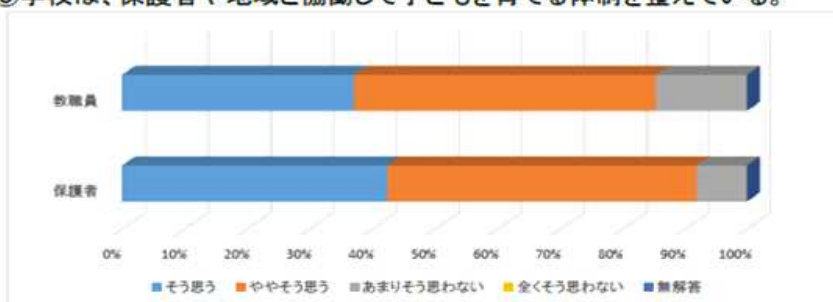
とも、なるべくかみ砕いて指導したいと思っています。最近耳にする「ブラック校則」は本校にはないと思っていますが、いかがですか。「9月の帰宅は17時まで」としてありますが、日没時刻も考えご家庭でもご指導ください。

④学校は、子どもや保護者の疑問や悩みに寄り添う姿勢をもっている。



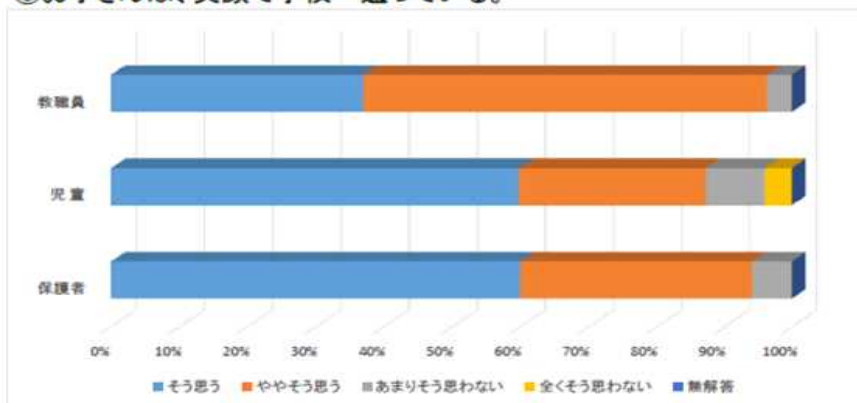
④児童、保護者ともに昨年より10ポイント以上の向上となりありがたいことです。児童の否定的な回答も10ポイント以上少なくなりましたが、「肯定100・否定0」が目標です。

⑤学校は、保護者や地域と協働して子どもを育てる体制を整えている。



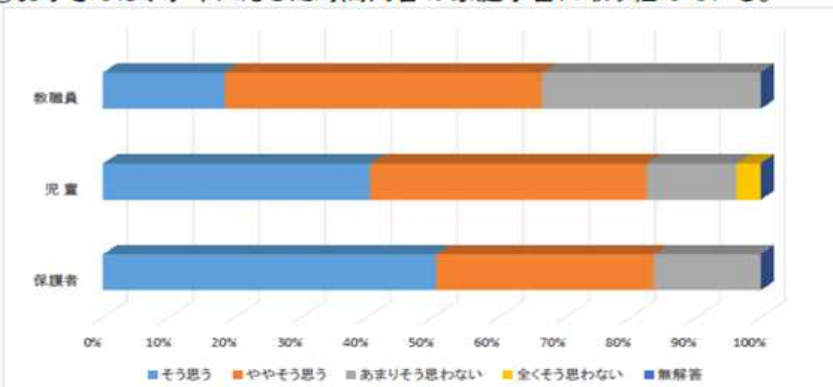
⑤もっと協働したい、もっと協働しなくては……良い方法が思いつかないまま、模索は続きます。行事等も工夫しながら行っています。ご意見をお聞かせください。

⑥お子さんは、笑顔で学校へ通っている。



⑥「笑顔で……」という漠然とした設問ですが、学校生活を振り返るきっかけにしてほしい問いでした。結果、児童の肯定的な回答が昨年より10ポイント以上増えました。こちらも「めざせ100%」。

⑦お子さんは、学年に応じた時間内容の家庭学習に取り組んでいる。

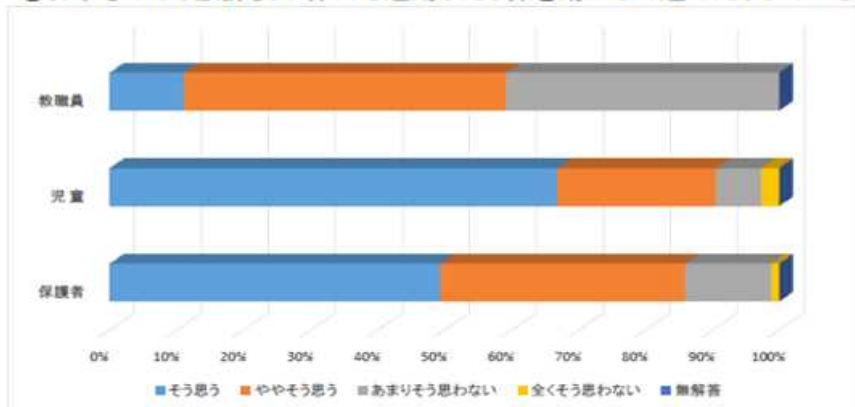


⑦ここから⑩までの設問は、結果のグラフがこのアンケートの特徴的な形になっています。

「教職員は否定的だが、児童や保護者はなかなか肯定的で、グラフの形に差が大きい」という結果です。

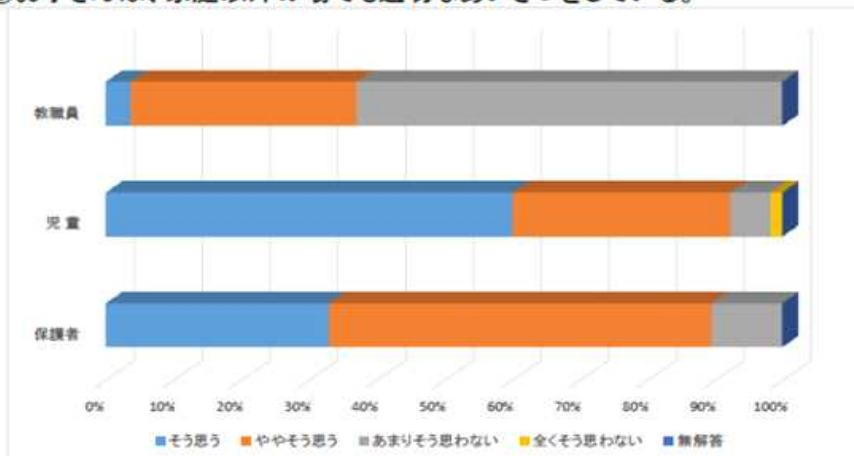
その原因として、「教職員は、『できている児童はいるが、全員ができているというわけではない。もっと大勢の児童（すべての児童）に目標を達成してほしい』という思いから辛い点をつけるが、児童や保護者は『うちは大丈夫!』という自信から高い点をつける」という傾向があります。中には自分を勘違いして(!?)高い点をつけた児童……いやそれは言うまい……

⑧お子さんは、放課後や休日も運動したり体を動かして遊んだりしている。



⑧は、コロナ禍で思い切り体を動かす場や機会が減っていることも影響していると思われます。教職員からの回答がカラいのですが、これは見込み違いで児童や保護者の回答が実態に合っている……のだとしたい。

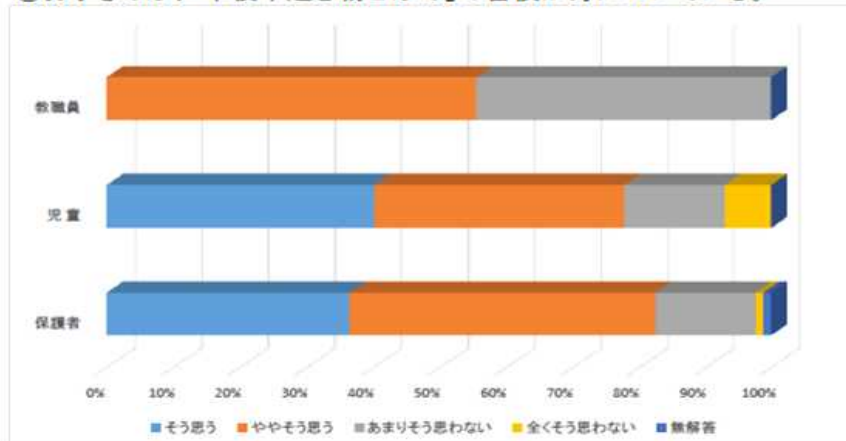
⑨お子さんは、家庭以外の場でも適切なあいさつをしている。



⑨は、教職員のグラフに納得です。児童のあいさつについては職員の会議でも話題になり、イロイロと指導の作戦を練っているところ。もちろん、よくできる児童もたくさんいるのですよ。ただ、大空小学校全体としては、まだまだできるはず。

南の森に住んでいる知人は、「家の前の家庭菜園にいと、大空小の子どもが『おばさん、行ってきまーす!』ってめんこいんだわー」と。短いあいさつでも人間関係を作るちからをもっていますね。

⑩お子さんは、「早寝早起き朝ごはん」の習慣が身についている。



⑩驚きの「教職員に青ナシ」。ただ「黄色もナシ」。児童の真の姿は？

VRやゲームなどによる「3D酔い（ぜひ検索してください）」による頭痛や腹痛が疑われる児童も見られます。ゲームやスマホとの関わりにご注意。